

マダイの中間育成の経過

今年も伊豆各地で放流するマダイ幼魚を育てる中間育成が始まりました。網代では6月5日に約40万尾、田子では6月7日に約23万尾の稚魚が海上に設置した生簀へと搬入されました。マダイは体長60mm以上で放流すると、その後の生き残りが良いことが分かっています。そのため、約50日の中間育成期間で60mm以上に成長させます。

マダイの中間育成における歩留まりの目標は、第7次静岡県栽培基本計画で66%とされています。しかし、平成29年までは数年にわたり目標を大きく下回る年が続いていました。そこで、昨年は歩留まり向上を目指して、沖出し直後の共食いを抑えるために、沖出し当日から給餌、また日々の給餌量を増やすといった取り組みが行われました。さらに田子では、朝昼夕に加えて早朝5時にも給餌が行われました。その結果、網代、田子ともに歩留まりが80%を超える好成績となりました。

さて、今年の状況ですが、沖出し時の稚魚の体長がやや小さかったためか、輸送および搬入時において、昨年より多くの斃死が見られました。ただし翌日以降は安定し、活発に餌を食べる様子が確認されました。給餌量は歩留りの良かった昨年と同量とし、田子では昨年に引き続いて早朝5時にも給餌が行われています。網代では6月12日に生簀全体を覆う赤潮が発生し、全体で1000尾程度の斃死が確認されました。またその後、ビブリオ病と滑走細菌症の混合感染が発生しました。早期発見と迅速な投薬対応により、被害は沈静化しましたが、今後も注意が必要です。



中間育成現場（左：田子、右：網代）

（鈴木聡志）